

## 平成 23 年度浦安市青少年問題協議会議事録

1. 開催日時 平成 24 年 1 月 20 日（金）午後 2 時～午後 3 時 44 分

2. 開催場所 消防庁舎多目的ホール

3. 出席者

（委員）松崎秀樹会長、中村健副会長、辻田明委員、大塚久美子委員、細田玲子委員、  
織戸久雄委員、小鍛冶周二委員、小比類巻勲委員、黒田江美子委員、  
山高智美委員、杉山かおる委員、安部紘二委員、折本幸子委員、長島忠委員、  
寺井裕二委員、富山勝夫委員、大内一浩委員、上野菊良委員、  
※欠席 財津定夫委員、永井通委員

※婦人の会連合会代表については、12 月 30 日付辞任届の提出により後任依頼中

（説明者及び事務局）青少年センター 齋藤所長、本田副主幹

浦安警察署生活安全課 安井課長

青少年課 岩井係長、近藤係長

こども部 米本次長 青少年課 岡部課長、杉山補佐、並木副主査、  
讃岐主事

4. 議題

（1）会長挨拶

（2）報告事項

1) 平成 23 年度浦安市青少年センター補導・相談状況について

2) 平成 23 年度浦安市における少年の犯罪状況について

3) 震災における青少年関係事業の状況について

4) その他

5. 議事の概要

（1）会長挨拶

（2）議事の進行について

条例 7 条の規定により、会長である松崎秀樹市長が議長となり、議事を進行した。

（3）報告事項 1～4 について、各担当者より資料に基づき説明し、それぞれ質疑応答があった。

1) 平成 23 年度浦安市青少年センター補導・相談状況について

2) 平成 23 年度浦安市における少年の犯罪状況について

3) 震災における青少年関係事業の状況について

4) その他

## 6. 会議の経過

### ○報告事項

#### 1) 平成 23 年度浦安市青少年センター補導・相談状況について

青少年センターより、パワーポイントを使用しながら、配付資料の 1～9 ページについて説明があり、その後質疑応答に入った。

#### (要旨)

青少年センターは 21 世紀を担う、青少年の非行防止に視点を置いた健全育成を推進するため、また、青少年を取り巻く社会環境の急激な変化に対応する活動を推進するため、の 2 つ目的があり、設置されている。青少年センターの主な活動は、5 つあり、1 つめが街頭補導活動、2 つめが、青少年相談活動、3 つめが、環境浄化活動、4 つめが、広報・啓発活動 5 つめが、関係諸機関との連携となっている。

また、青少年補導員とは、浦安市教育委員会から委嘱を受け、青少年の非行防止につとめ、健全育成を図ることを目的として活動している。その定数は、110 名で、小・中・高等学校の教員各 1 名、PTA 会員各校 1 名、関係団体の代表(青少年相談員、民生委員、保護司、子ども会自治会から各 1 名、民間有識者の方が委嘱されている。12 月末現在で 103 名がいる。青少年補導委員の主な活動として、4 種類あり、まず 1 つめが街頭補導活動、2 つめが啓発活動、3 つめが広報活動、4 つめが、研修・会議となっている。そのうち、1 つめの街頭補導活動について詳細を説明。

街頭補導活動で実施されるパトロールについては、中央パトロール、地区パトロール、特別パトロール、職員パトロールの 4 種類がある。

中央パトロールは、午前、午後、薄暮、夜間の 4 つの時間帯で、計画的に月 6 回、市内全域をセンター職員と補導員でパトロールのこと、地区パトロールは月 2 回実施している 8 中学校ごとの地域の実態に合わせたきめ細やかなパトロールのこと、特別パトロールは、早朝、県下一斉広域列車パトや市の行事である花火大会、盆踊り大会、今年については復興祭で行ったパトロールのこと、職員パトロールは下校時など職員が随時行っているパトロールのことをさす。(写真を提示し、パトロールの状況について説明)

次に浦安市の青少年の状況ということで、まず、補導状況について、次に相談状況について説明をする。まず、補導状況について、4 月～12 月までに実施したパトロールは合計で 343 回となっており、述べ従事者数は 1,574 名となっている。年度別の補導人数については、平成 23 年度は 291 名となっており、平成 22 年度の 191 名と比較すると 100 名の増加となっている。この原因としては、自転車の二人乗りの増加があげられる。学識別にみると、小学生 26 名、中学生 48 名、高校生 197 名、大学生 20 名となっている。行為別についてみると、二人乗りが 203 名と大きな割合を占めている。またその他の項目も 45 名となっており、その中に傘さし運転等の自転車がらみのものが入っている。自転車の問題の増加については、規範意識の低下や、自転車走行中の携帯の操作、ヘッドホンを聞きながら

の走行、信号無視、飛び出しなどの大人のマナーの悪さが影響しているのではないかと推察する。今後の対策としては、自転車の安全な乗り方の講習会等、浦安警察の協力も得ながら、進めていくのと同時に、愛の一声運動を粘り強く実施していく。

次に、相談状況について。新規の相談件数については、57件となっており、昨年の63件と比べて減少している。一方で、継続の回数については大きく増えており、昨年の84件に比べて、198件となっている。相談者別にみると、本人や、母親からの相談が多い。相談内容は、自分自身や家庭のことが28件と一番多い。

(委員) 補導については、非行というイメージが強かったが、自転車の乗り方などの安全面での注意が多いという認識でよいか。

(青少年センター) 自転車関係等、その場で注意すればすぐ直るような内容が多い。

(委員) 相談にくる相手は誰なのか、相談の深刻さ等具体的な事例を教えてください。

(青少年センター) 母親からの相談が多い。県下では、引きこもりで本人がくるケースがほとんどないが、浦安市では、本人が相談にくるケースが多い。親からは家庭内暴力や、進路を巡ってのトラブルで相談にくる場合がある。

(委員) 教育委員会内にも相談できる場所がある。内容によっては連携を取っていればよいと思った。

(青少年センター) 今年の特徴について高校生からの相談が多い。中学生までは良い子であったのに高校生になると、学校に行かなくなってしまうたり、家で父親がお酒を飲まないと普通なのに、お酒を飲んでしまうと、暴力をふるったりするなど、センターだけでは、対応できないということで、子ども家庭支援センター等、他の関係機関と協力の上対応している。また、大学生の子で、成績は良いがコミュニケーション能力が低く、どのような生き方をすればいいか、本人と母親等と一緒に方向性を探ったりしているケースもある。

(委員) 大震災の影響で精神的不調を訴えた人はいたのか。ひきこもり3件というのは震災の影響があったのか。また、補導に学識・行為別集計の中に「たむろ」とあるが、「たむろ」と判断する基準を教えてください。

(委員) 小中学校の子ども対象で県で、4月、6月、9月で、震災後のこどもの心の状況、心の状況が影響した行動の変化を測るためのアンケートを行った。4月は270名、6月は180名くらい、9月は50名弱のこどもが心の不調を訴えたというデータがある。

(青少年センター) 「たむろ」の定義について、センターで集計している「たむろ」については、迷惑行為になっているかどうかで判断している。

(委員) 自分自身・家庭の問題を解決する際に他の関係機関とどのように連携をとっているのか。

また、補導人数について平成21年度は401名に対して、平成22年度は215名と半減している。これは何か理由があるのか。

(青少年センター) 自分自身についての相談内容については一番身近に子どもたちの世話

をしている担任の先生などに対応していただくのが良いと思う。学校と連携して学校の方でよく見てもらうような形をとる。

平成 21 年から平成 22 年にかけて半減している理由については、学校によって二人乗りがあった場合は、一時期自転車通学を禁止するなどの対策を行ったためであると推測できる。今年については、浦安南高校が船橋に移転していたこともあり、市内にいる高校生が少なかったにも関わらず、なぜ増加してしまったかという点、大学生の二人乗りの件数が多かったためであると推測される。その背景には大人の自転車のマナーの悪さや自転車への認識の甘さ等が原因となっているように思われる。

(委員) 相談内容について、継続が昨年より増加しているが、先ほど話のあった、家庭内暴力等が増えているということと関係があるのか。

(青少年センター) 自分自身や、家庭に関するものが多い。

(委員) 精神的不調について、震災の影響で家が傾いていることは関係するのかな。

(センター) 具体的に把握はしていないが、関係ある可能性はある。

(委員) 震災に関係する視点を持って相談を受けたほうが良い。

(委員) 美浜 3 丁目に 20 年くらい引きこもっている人がいるが、そのような場合どのような対処するのか。青少年と呼ばれる年齢を超えてしまう。

(委員) 引きこもりについては青少年センターで把握していないのか。

(青少年センター) センターのほうでは把握していない。

(浦安警察署) 引きこもると、犯罪として表に出てこないもので、対応するのは難しい。

(委員) 自転車の無灯火走行への声掛けについてカウント外になっているが、これは、数が多いからか。

(青少年センター) 数が多いためカウント外にしている。

(委員) データーとして数に上がってこないにしても、声掛けをするのが大切だと思う。

## 2) 平成 23 年度浦安市における少年の犯罪状況について

浦安警察署より、配付資料 10 ページについて説明があり、その後質疑応答に入った。

(要旨)

浦安市では非行少年を 187 人(12 月末現在)検挙している。少年犯罪については万引き、自転車、車上狙いが多い。

ひったくりは平成 21 年は 56 件発生した。22 年は 21 件までに抑えた。

ひったくりは、東京メトロ浦安駅徒歩約 20 分以内が、22 年の発生件数のうち 18 件と大半をしめている。この理由の一つとして車道と歩道の区別がないことがあげられる。犯人は駅の利用者が細い路地などに入り、一人になるのを狙って犯行に及んでいる。この犯人については、青少年だけでなく、大人もいる。また時間については午後の 6 時～8 時が多く、この時間の犯行が全体の 8 割近くを占めている。なぜ多いかという点、駅利用者の帰宅時間となっているためである。また、被害者は、駅の利用者の女性が多い。

これらのひたたくりに被害を防ぐには、自転車にネットカバーをつけること、徒歩の場合は、バックをたすき掛けにする、荷物を車道と反対側に持つことが有効とされる。

また、万引きについては、検挙された少年の 187 件中 140 件となっており多くを占めている。東京ディズニーランド内で行われたものが多い。ただ、浦安市内の青少年が行ったものではなく、観光で来た市外の青少年が行ったものが多い。

振り込め詐欺については、千葉県全体で約 700 件、被害総額約 10 億円となっている。浦安市内では、約 20 件で 5 千万円の被害が出ている。市川等に比べて少なくなっている。浦安が少ない理由として、お祭りなどの行事をたくさん行うことで、行政と市民が融和して市民との密着度が高いためであると推察している。

また、振り込め詐欺を未来型犯罪として対策に力を入れている。この理由として振り込め詐欺は、将来さらに厄介な犯罪へと発展していく可能性がある。そこで主役になるのが、現在の青少年となるため、現時点で対策をしておく必要がある。

振り込め詐欺は困った人を助けてあげたいという心に付け込んだ犯罪で、特に高齢者の女性が被害にあっている。浦安市のHPに犯罪情報を載せているので、それを参考にして欲しい。

(委員) 千葉県の犯罪状況は分かったが、浦安市での少年犯罪の状況がわかるものがあるか。

(浦安警察署) 浦安市全体の犯罪状況はわかるが、浦安市の青少年のみの犯罪状況がわかるものはない。

(浦安警察署) 浦安では 187 名の少年が検挙されている。万引きが減少している。

(委員) 自転車のルールが守られていない。舞浜駅の歩道橋は自転車を降りてわたる人はほとんどいなかったが、警察の方が立った途端に交通ルールを守るようになった。外に出ただけなのであれば、積極的に外に出て活動していただきたい。

(浦安警察署) 街頭活動を強化していきたい。高校生の街頭当番を置くなどして、いかに自分たちの道路が危ないのか、認識させていくようにすることも良い。

(委員) 補導について小学生が多いのか。

(浦安警察署) 中高生が多い。ただし小学生からの教育が大事。

(委員) 187 名の内訳で市内、市外での内訳が分かるとよい。

(浦安警察署) 浦安市、浦安市外での数は出ていないが、浦安市内の子どもは多くない。

### 3) 震災における青少年関係事業の状況について

青少年課より、パワーポイントを使用しながら、配付資料の 11～23 ページについて説明があり、その後、質疑応答に入った。

(要旨)

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災が青少年事業に及ぼした影響について。

青少年課が所管している施設は放課後異年齢児交流促進事業実施施設 5 施設、青少年交流活動センターうら・らめーる、青少年館、新浦安プラザ内青少年交流施設、今川少年の広場、児童育成クラブ 21 施設、合計すると 30 施設となる。この中で、大きな影響を受けた施設は、放課後異年齢児交流促進事業実施施設 2 施設、今川少年の広場、児童育成クラブとなっている。事業への影響としては、少年少女洋上研修が中止となり、青少年海外派遣は延期となった。これら東日本大震災がもたらした影響について、詳しく見ていくこととする。

まず放課後異年齢児交流促進事業実施施設の被害状況について。日の出小学校と明海小学校については液状化の影響を大きく受けた。

それ以外の 3 施設においても、ライフラインが復旧するまで休館をしたが、被害の少なかった、南小は 3 月 23 日、入船北小は 3 月 28 日に再開。

明海小も建物は利用可能ということで、4 月 12 日に再開、東小は救援物資倉庫などを施設が兼ねていたこともあり 4 月 11 日から再開した。

日の出小学校は、建物の利用ができないことから、校庭や体育館を利用して実施することとなり、ベイシティ浦安内の施設なども利用しながら、7 月 1 日に再開した。

少年の広場の被害状況について。少年の広場は今川にあるため、液状化の影響を大きく受けた。釜場や炊事場、トイレなど建物への被害はなかったものの、液状化の泥が施設内や側溝に堆積し、利用できる状況にはなかった。少年の広場の復旧については、利用している青少年関係団体や管理を委託している施設利用振興公社など、大勢の方に協力していただき、4 月 16 日土曜日の午前中に泥の撤去と側溝の清掃を行うことができ、5 月 1 日より再開することができた。

次に児童育成クラブ施設の被害状況について。児童育成クラブ施設は、市内 18 小学校区すべてに整備し、分室を含む 21 の建物で保育を行っている。震災による液状化の影響により、大きな被害を受けた日の出小学校地区児童育成クラブは向かって右奥に 96mm、中央奥に 80mm、左奥 125mm の地盤沈下により、施設が傾いているため、現在も使用できない状態となっている。また、園庭では液状化による地面の隆起、隣接している保育園との境のフェンスに、傾きや変形がみられた。明海小学校地区児童育成クラブも同様に、液状化による被害が大きく、施設は、向かって右奥に 152mm、中央奥に 100mm、左奥 57mm の地盤沈下により、施設が傾いているため、現在も使用できない状態となっている。また、門扉・フェンスの傾きや変形がみられ、園庭では地面の隆起をはじめ、水道管の破裂や下水道のマンホールの隆起もみられた。その他の施設の被災状況として、高洲北小学校地区児童育成クラブでは、門扉やフェンスが大きく傾いたり、浦安小学校地区、見明川小学校地区や東野小学校地区児童育成クラブなどにおいても、ブロックなどが割れたり門扉の支柱が傾く被害が出ている。

震災後の状況については、建物の安全性の確認やライフラインの復旧の関係から休所を余儀なくされたが、被害の少なかった、北部小、南小、東小、浦安小、入船北小学校地区

の5クラブは、震災から6日後の3月17日に再開し、日の出小、明海小を除く11クラブ（見明川小、入船南小、舞浜小、日の出南小、明海南小、富岡小、東野小、美浜南小、美浜北小、高洲小、高洲北小）については3月24日に再開した。

大きな影響を受けた日の出小学校地区児童育成クラブの再開にあたっては、クラブ施設の使用が出来ないため、3月25日から日の出公民館3階の会議室と多目的室を使用し（7月21日までの間）、7月22日からの夏休みの間は、（8月28日まで）日の出小学校1階の普通教室を2クラス使用し、その後の8月29日からは、日の出幼稚園第2園舎を使用し、現在に至っている。

また、明海小学校地区児童育成クラブの再開にあたっては、3月25日から、（4月10日までの間）同地区にある、明海南小学校地区児童育成クラブに協力していただき、同クラブでの共同保育を行っていたが、4月11日からは、校舎1階の教育相談室を児童育成クラブ専用として使用し現在に至っている。

青少年交流活動センター、青少年館、青少年交流施設「新浦安カルチャープラザ」についても、ライフラインの復旧を待って再開をしている

各施設の震災後の対応については、まず、防災備品の整備、避難所及び経路の確認、利用者対応などのマニュアルについて、再度検討した。

次に、情報について。携帯電話が通じないことから情報の取り入れについて苦慮した。そのため、多くの施設は、学校施設に隣接していることから、学校防災無線の活用やラジオ、テレビ、インターネット（ホームページ）等の有効活用について検討を進めている。

そして、訓練について、利用者を含めた中での、実地訓練を行うよう指導している。

次に、震災により影響を多く受けた事業について。洋上研修は昭和62年度より実施している青少年の体験事業で、フェリーで北海道へ行き、現地での宿泊研修をする内容となっているが、今回の震災により、フェリー発着となっている大洗港が被災したことや、福島沖を航行すること、余震等の心配もあることなどから、事業の中止を余儀なくされた。来年度は実施予定。

続いて、青少年海外派遣事業は、3月18日に渡米する予定だったが、震災により一時中止とした。その後派遣先との調整の結果平成24年3月16日に派遣することとなっている。今回の派遣では、震災における浦安市の状況等を現地で報告することとしている。

最後にまとめとして、災害に対する日頃からの準備、予防対策の大切さを改めて認識させられたと同時に、各施設に勤務する個々の職員の意識づけや資質の向上を図っていかなければならないことに加え、地域市民の協力なくして復旧は成らないことから、日頃の活動における地域との繋がりを大切に育んでいくことの重要性を改めて考えさせられた。

（浦安警察署）浦安警察署は外観が被害を受けた。液状化の泥を撤去している図書館職員に会った。行政と市民が近い、スマートシティだと思った。

（委員）高洲地区の中学校を計画通り作っていただきたい。

(委員) 1年遅れで実施予定。

(委員) ボランティアで浦安中学の生徒が協力していましたが、協力体制を作っていってほしい。

(委員) 浦安中学生だけでなく、中学生 180 名が災害ボランティアに登録して活動していた。

(委員) あと約2か月で震災1年となる。帰宅困難者訓練を実施したいと思っている。